

気候変動に対応するための取組 みんなでやろう「流域治水」

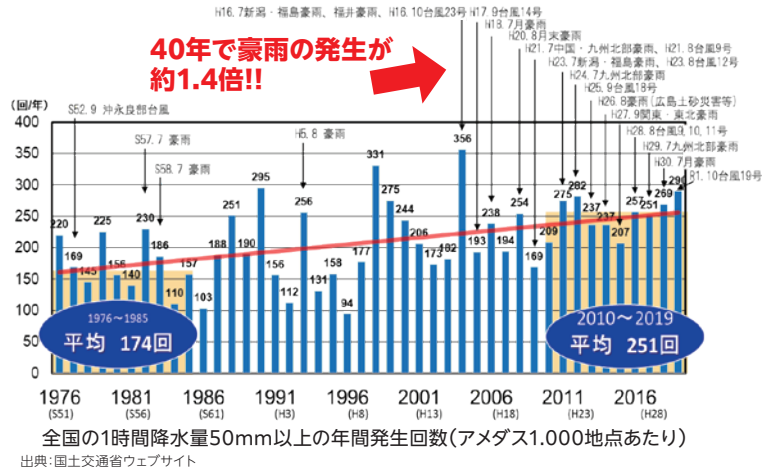


1 気候変動による水害リスクの増加

近年、全国各地において、集中豪雨や大型台風などによる豪雨災害が激甚化・頻発化しており、さらに、気候変動の影響に伴う降雨量の増加が予測されております。本県においても、いつ大規模な豪雨災害が発生してもおかしくない状況であり、ますます水害リスクが高まっている状況です。



出典：国土交通省ウェブサイト



2 新たな治水対策～流域治水への転換～

気候変動の影響に伴う降雨量の増加に対応していくためには、これまでの取組の枠を超えて、更なる対策の強化を図っていく必要があります。そのため、河川整備をより一層加速化するとともに、企業や住民など、流域のあらゆる関係者が協働して豪雨災害対策に取り組む、「流域治水」への転換が必要不可欠です。



横浜駅周辺浸水情報

出典：浸水ナビ(国土交通省)

従来の治水

役割分担を明確化した対策
河川、下水道、砂防、海岸等の管理者主体のハード対策

河川区域等が中心の対策
河川区域や氾濫域を中心に対策を実施

新たな「流域治水」

あらゆる関係者の協働による対策
国、県、市町村、企業、住民など、流域全体のあらゆる関係者の協働により、ハード・ソフト両面から対策

あらゆる場所での対策
河川区域、集水域、氾濫域の流域全体で対策を実施



出典：「始まっています新しい治水対策「流域治水プロジェクト」(関東地方整備局)

3 「流域治水」の3つの対策テーマ

流域治水の対策テーマは、河川の整備に加え、雨水を一時的に貯める取組などの①「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」、浸水しやすい場所からの移転を誘導するなどの②「被害対象を減少させるための対策」、避難体制を強化するなどの③「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」の3つであり、河川区域、集水域、氾濫域のあらゆる場所で対策を実施します。

流域治水プロジェクトはこちら▶



① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・遊水地、調節池の整備 河川区域
- ・堤防整備、河道掘削 集水域
- ・雨水貯留浸透施設の整備促進
- ・下水道や農業水路の整備
- ・森林整備や砂防施設の整備

② 被害対象を減少させるための対策

- ・浸水しやすい場所からの移転誘導 氾濫域
- ・浸水しやすい場所の地盤かさ上げ

③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・マイ・タイムラインの作成 氾濫域
- ・ハザードマップの確認
- ・河川監視カメラ・水位計による河川情報の確認
- ・建物の浸水対策
- ・避難訓練の実施



4 河川整備の加速化

河川区域

■遊水地・調節池・堤防整備、河道掘削の加速化

・大雨による洪水を一時的に貯め込み、あふれるのを防止する遊水地・調節池や、河川の流れる断面を広げる堤防の整備や河道掘削を加速化することによって、氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策を加速化します。



引地川 下土棚遊水地(藤沢市)

5 流域治水として、みなさんにできること

集水域

■雨水貯留浸透施設を設置する

・住宅に雨水貯留浸透施設を設置することにより、降った雨水が地中にしみこんだり、タンクに貯められることで、河川へ流れ出る水が減るため、浸水被害の防止に効果があります。
 ・また、公園や学校のグラウンドを掘り下げるなどして、一時的に雨水を貯留することで、浸水被害の防止に効果があります。



出典:国土交通省ウェブサイトを加工

氾濫域

■雨量・水位・カメラ画像を確認する

・大雨の際は、神奈川県「雨量水位情報」や「河川監視カメラ等」をインターネット上で確認することで、身近な河川の情報をいち早く把握できます。



川の水位情報 危機管理型水位計

HPへはこちら▲



神奈川県雨量水位情報

HPへはこちら▲

■ハザードマップを確認する

・洪水が発生した場合の浸水区域や浸水深、最寄りの避難所等の情報を表示した「ハザードマップ」を事前確認しておくことで、いざという時に、円滑に、迅速に、安全に避難することができます。

ハザードマップはこちら▶



横浜市洪水ハザードマップ(鶴見区)

■マイ・タイムラインを作成する

・水災害が発生した際に、「いつ」、「何をするのか」を整理した、個人用の防災計画として「マイ・タイムライン」を作成しましょう。
 ・大雨などで河川水位が上昇した場合を想定して、避難行動を時系列で整理することで、いざという時の行動チェックリストや判断サポートツールとして、役立ちます。

マイ・タイムラインの作り方はこちら▼



台風発生

川が増水を開始

避難準備 高齢者等避難開始

避難指示

川が溢れそう

氾濫発生

3日前 2日前 1日前 半日前

・気象情報の確認(天気予報等) 防災グッズの準備
 「ハザードマップ」で避難場所などを確認
 雨量や水位の情報を「雨量水位情報」などで収集
 避難しやすい服に着替えるなど準備
 避難開始完了

■止水板等を設置する

・大雨時に浸水が予想される建物には、出入口などに止水板を設置することで、建物内部の浸水被害を軽減することができます。

